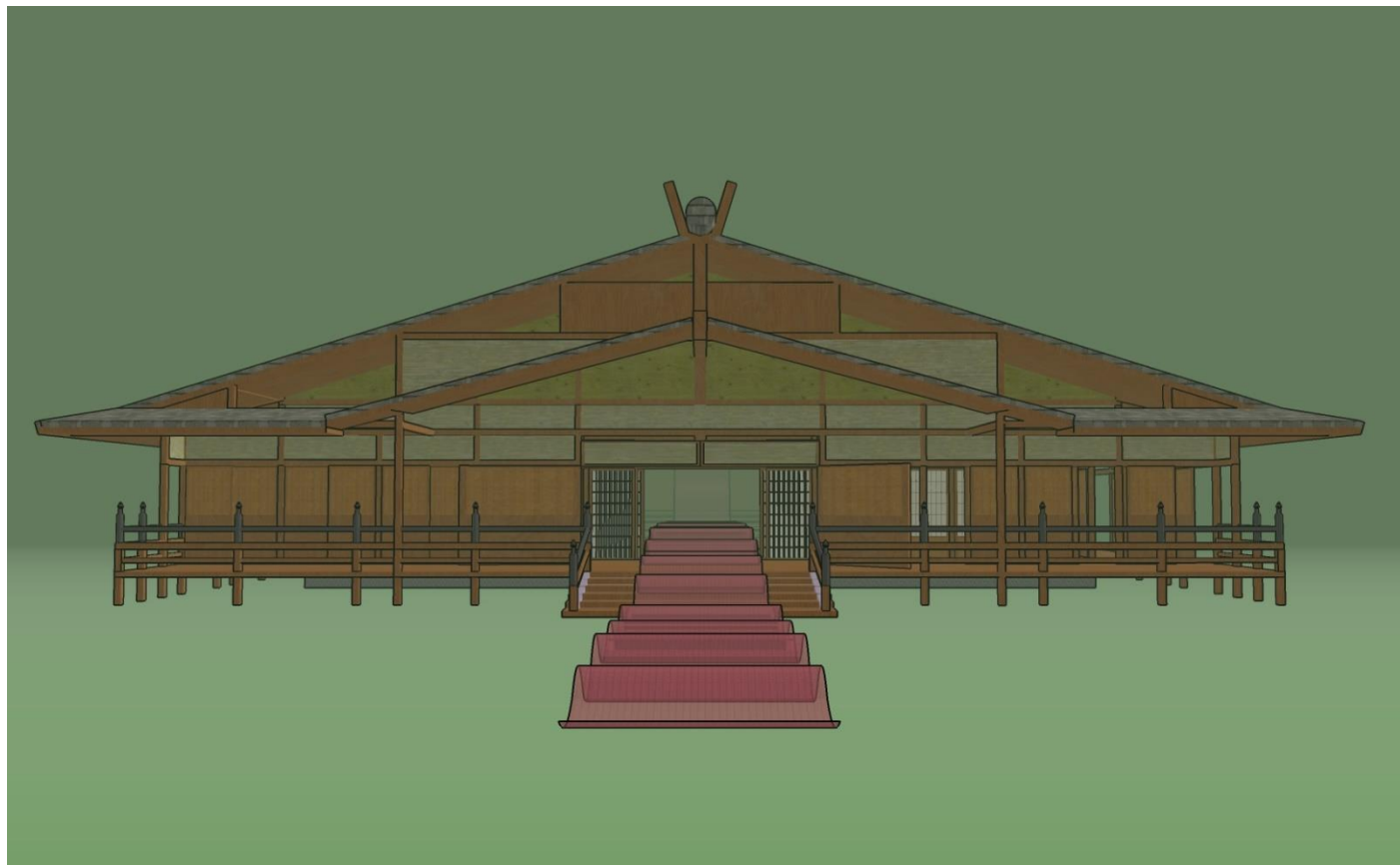


岩崎純一学術研究所（IJAI）スタッフ（岩崎および共同編纂者）用仮想御殿「武蔵幻想邸」大広間
3DCG データの 2D 画像版 2011/8/14：作成開始、2012/9/6：公開、2019/5/16：最終更新

IJAI バーチャル（仮想）共同編纂所、通称「武蔵幻想邸」の大広間。IJAI スタッフは、現実世界では東京や岡山に散らばっているため、この御殿を仮想の共同編纂所、知的遊戯の場としている。元は岩崎が自閉症の方々との遊びの中で設計。架空だが、御殿での活動は IJAI の活動そのもの。IJDC に従い、（学）堂、舎、廊、殿、館、棟、庭、邸、楼、柱、宅、屋、房、斎を構成。他の区域は別掲の全図を参照。



武蔵幻想大広間（IJDC では「研究学堂」などと称する）の正面。



武蔵幻想大広間の正面。



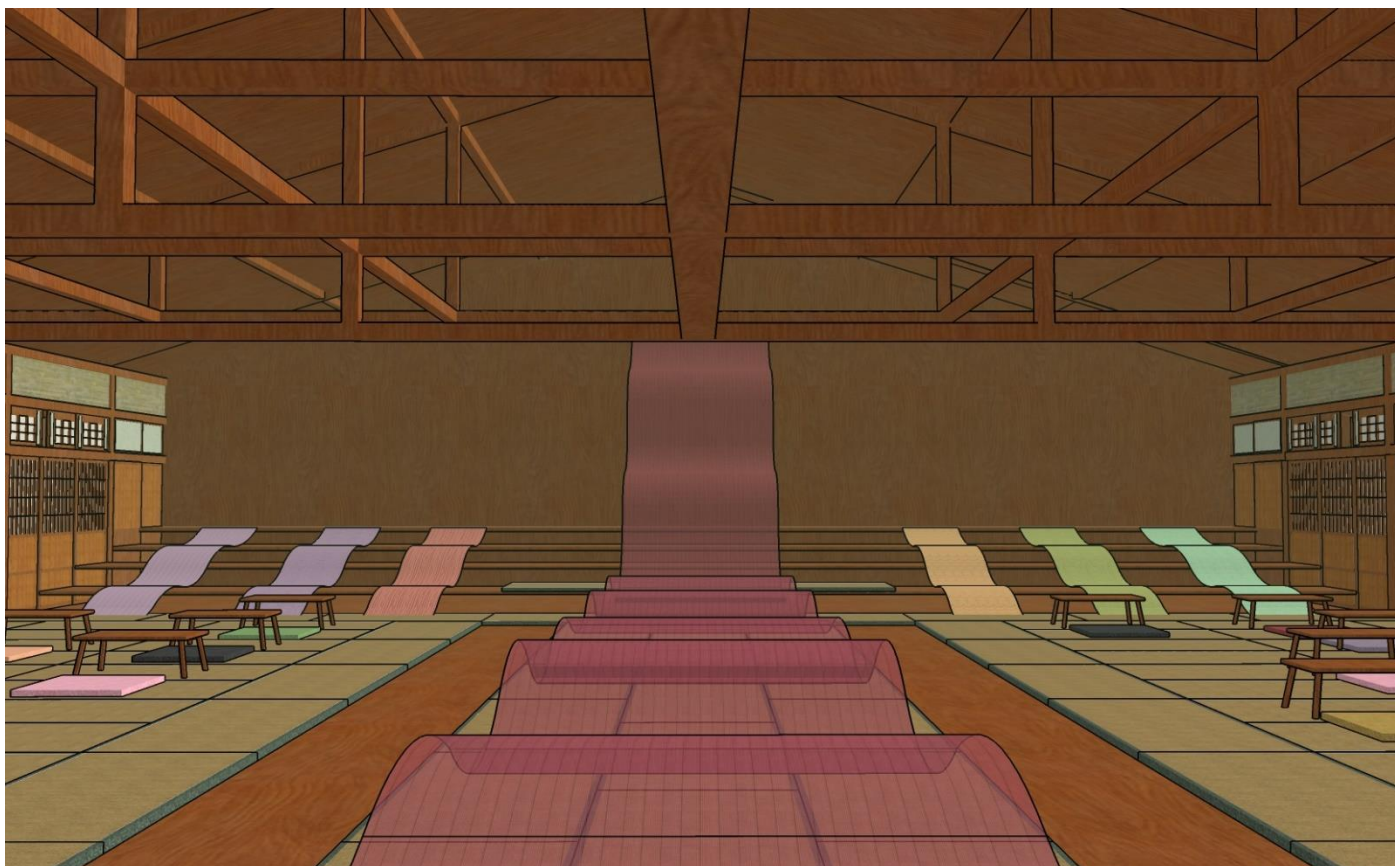
入口から出てくる絹織物は、織られて（編まれて）いく IJCA（アーカイブ）・IJCW（『全集』）のイメージ。



入口より入る。



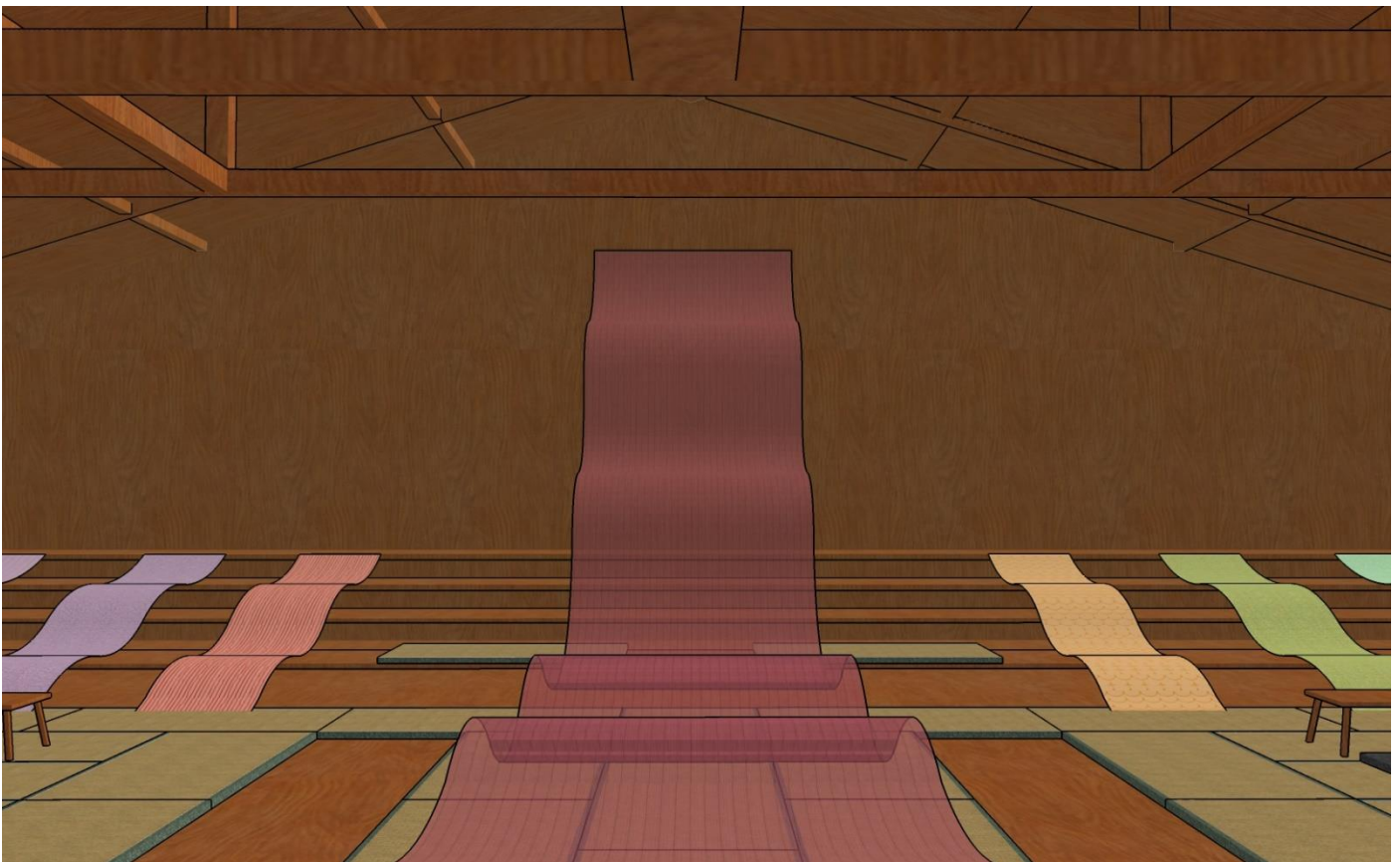
IJCA・IJCW 本編の両脇には、別個に編まれていく様々な色彩の別添資料がイメージされている。



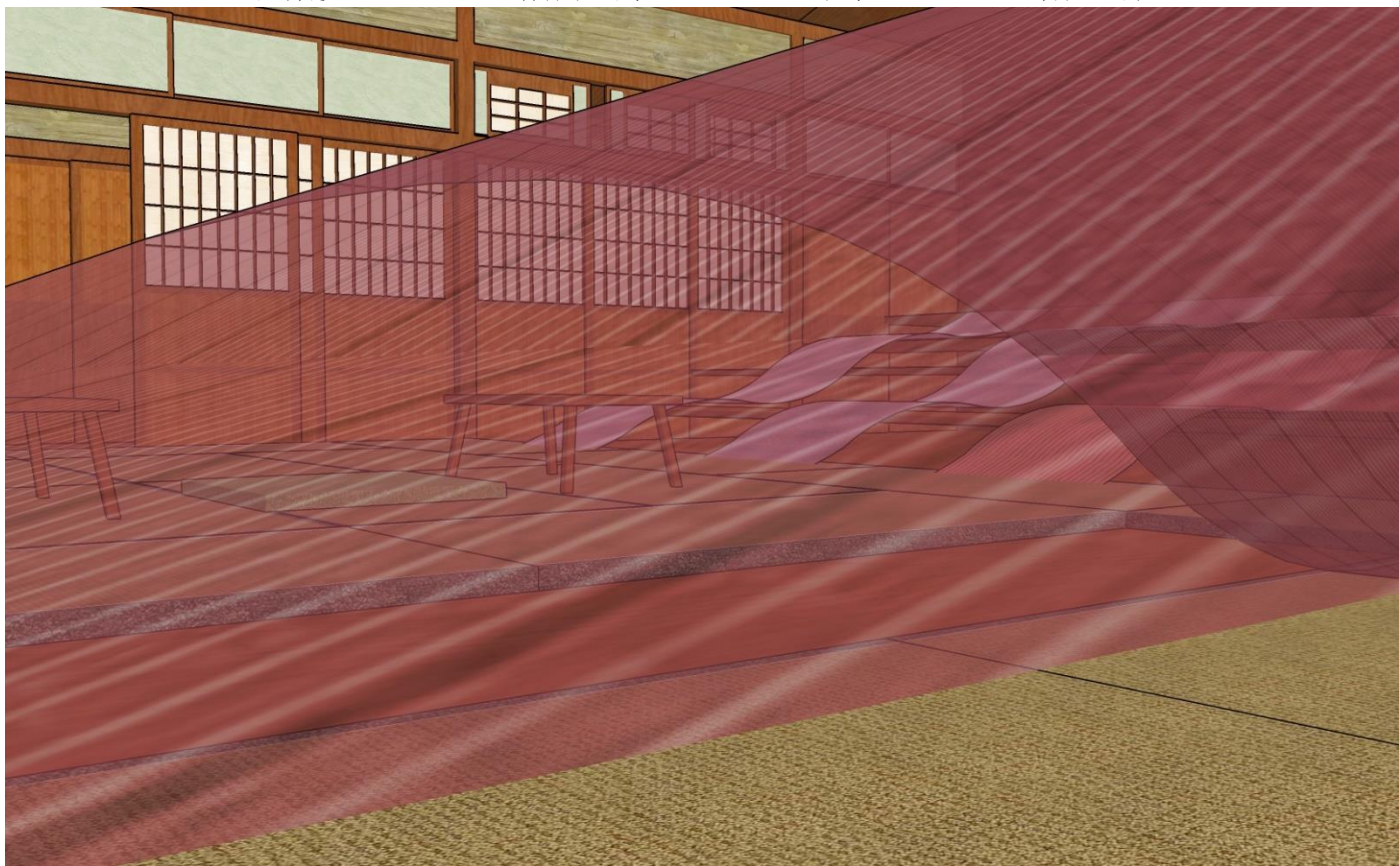
IJCA・IJCW は、絹織物のイメージでもあれば、絵巻物のイメージでもある。



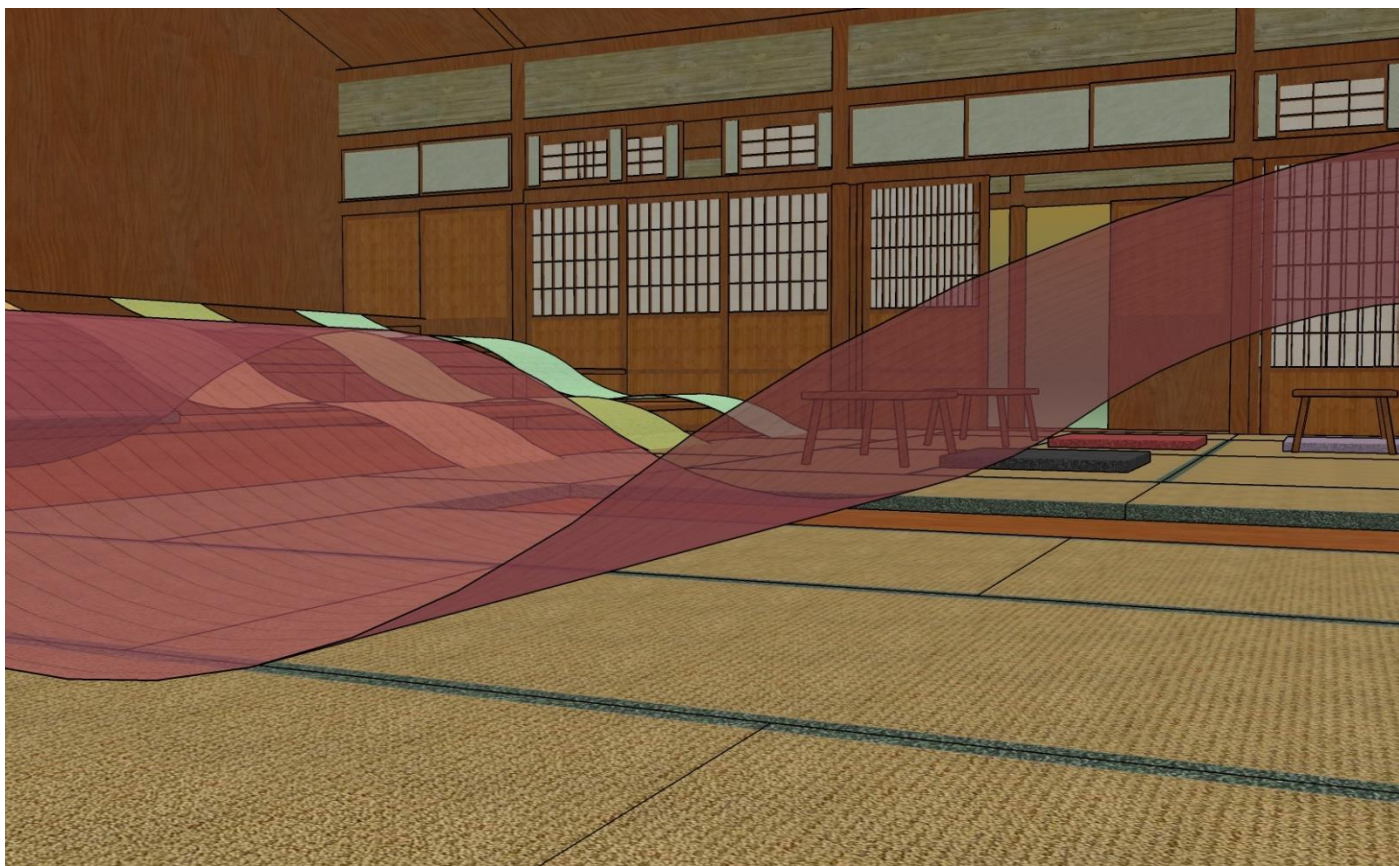
大広間（共同編纂所）舞台正面。邸全体は寝殿造だが（別掲の全図参照）、大広間は大規模な寺子屋とも言える。



IJCA・IJCW が湧き出し、滝のように流れて、美しい水脈となるイメージ。



絹織物に喩えられた IJCA・IJCW の近影 1。



絹織物に喩えられた IJCA・IJCW の近影 2。



絹織物に喩えられた IJCA・IJCW の近影 3。



絹織物に喩えられた IJCA・IJCW の近影 4。



この大広間は、IJCA・IJCW の編纂の中核であり、武蔵幻想邸の中核でもある。



様々な色彩の文書を編む編纂所のイメージ。



ここへ入れるのは共同編纂者と呼ばれるスタッフ。共同編纂者、協力者、協力要請者、利用者等の定義は序巻へ。



各個の編纂が終われば、中央を流れる本編へ編入することとなる。



正面より左へ進む。



建築ソフト SketchUp により、精緻に設計してある。



休憩中、かくれんぼをするような隠れ場所は大広間にはない。かくれんぼは、別掲の西の対・東の対や庭で。



共同編纂者には神道・和歌関係の女性が多く、IJAI の活動の日本的気風を支えている。



正面より右へ進む。



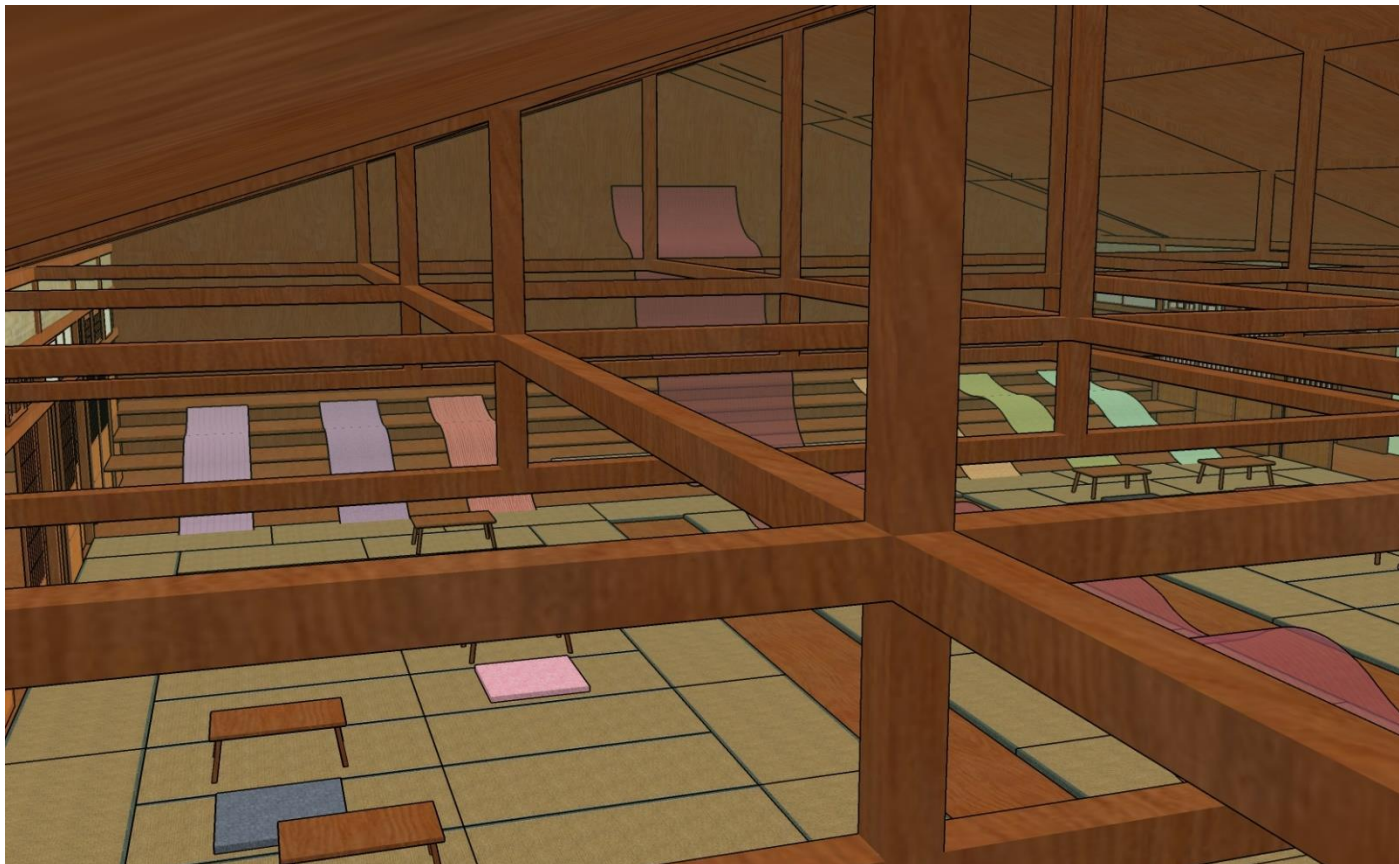
障子も丁寧に設計。



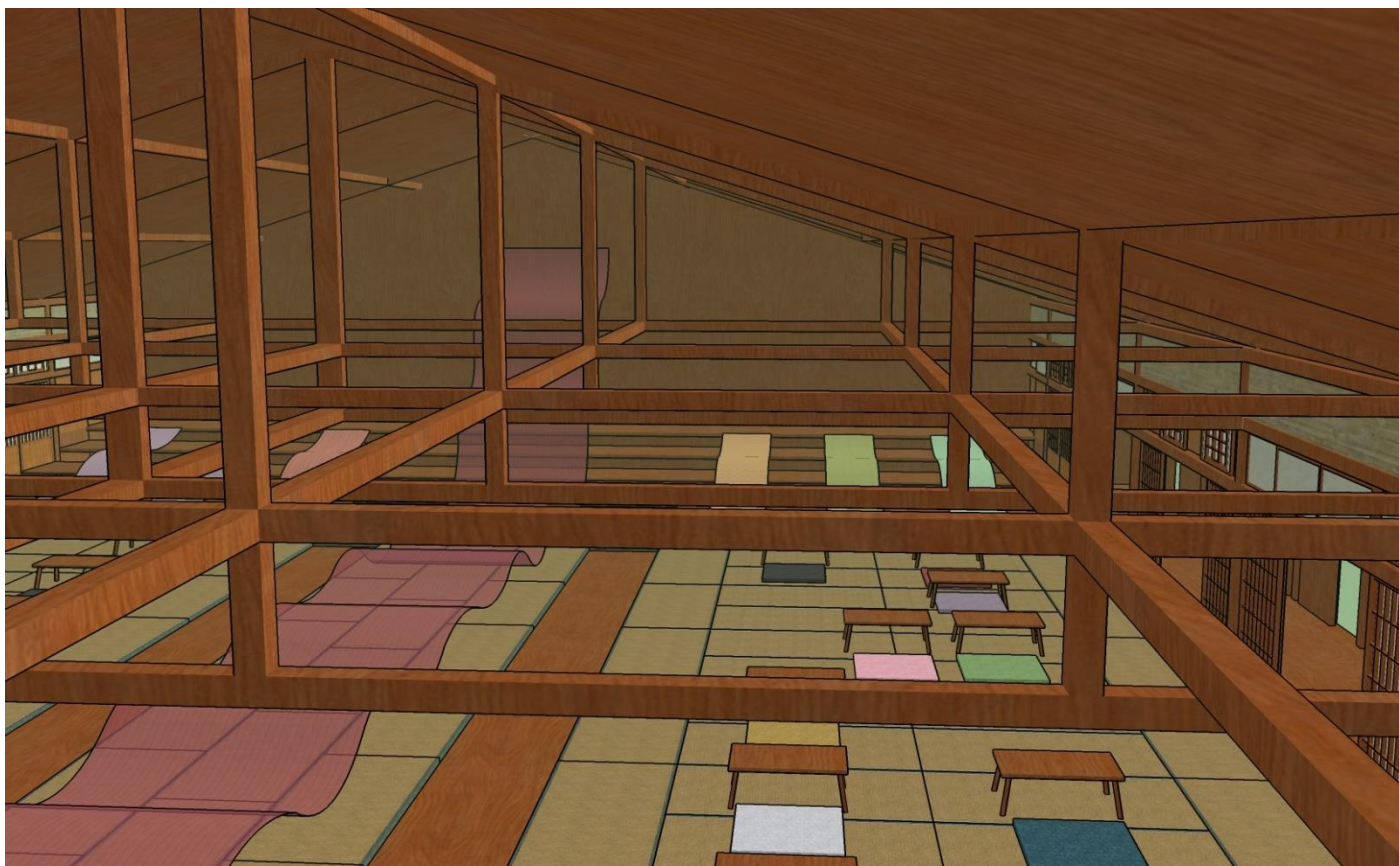
障子を開け放した様子。



大広間でも、仮想歌会が催されるが、別掲の全図における新水無瀬川での曲水の宴が歌会の真骨頂である。



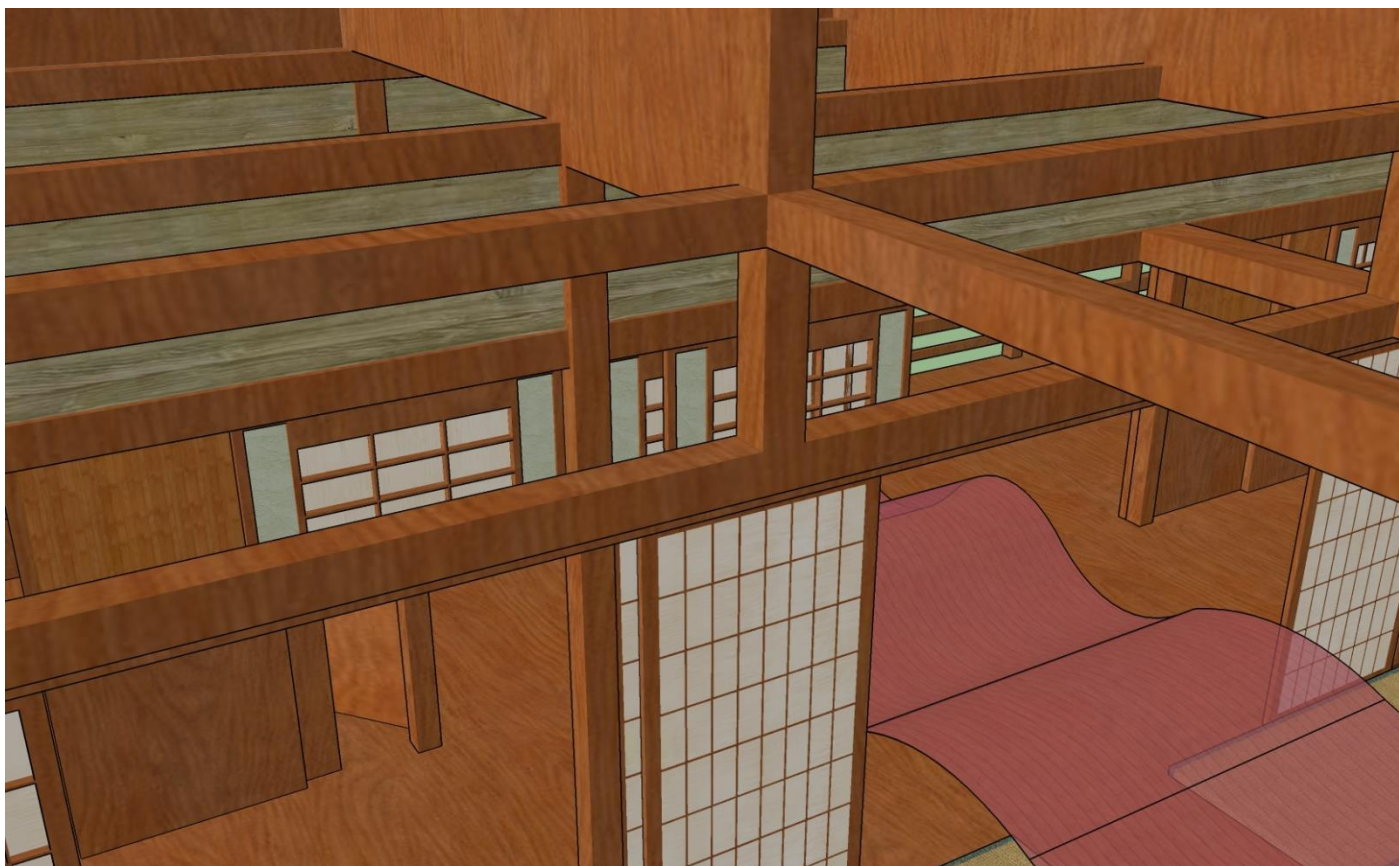
梁から見下ろした大広間。



畳はよく敷き方を変える。



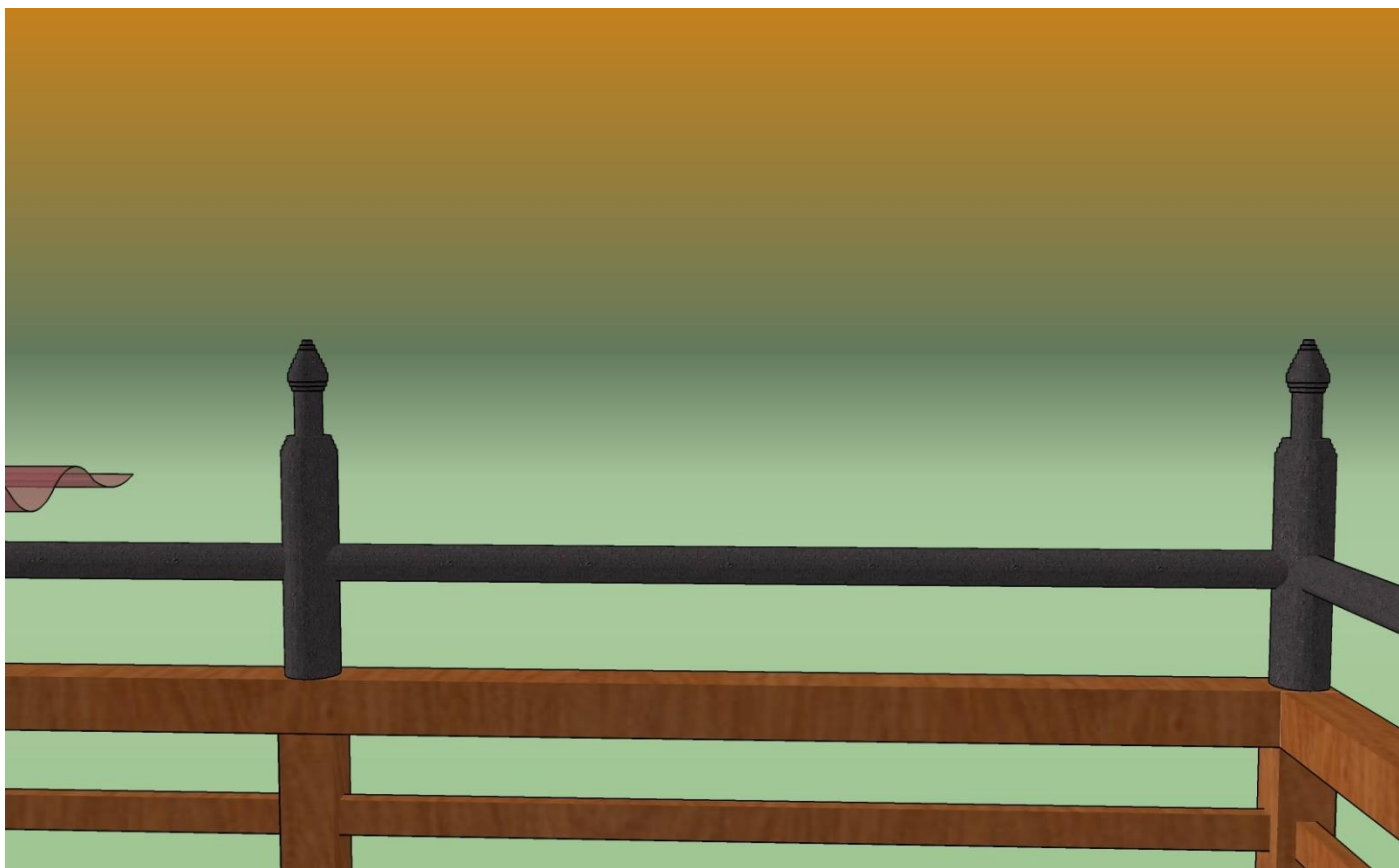
編纂され、無限の彼方へと出ていく IJCA・IJCW。



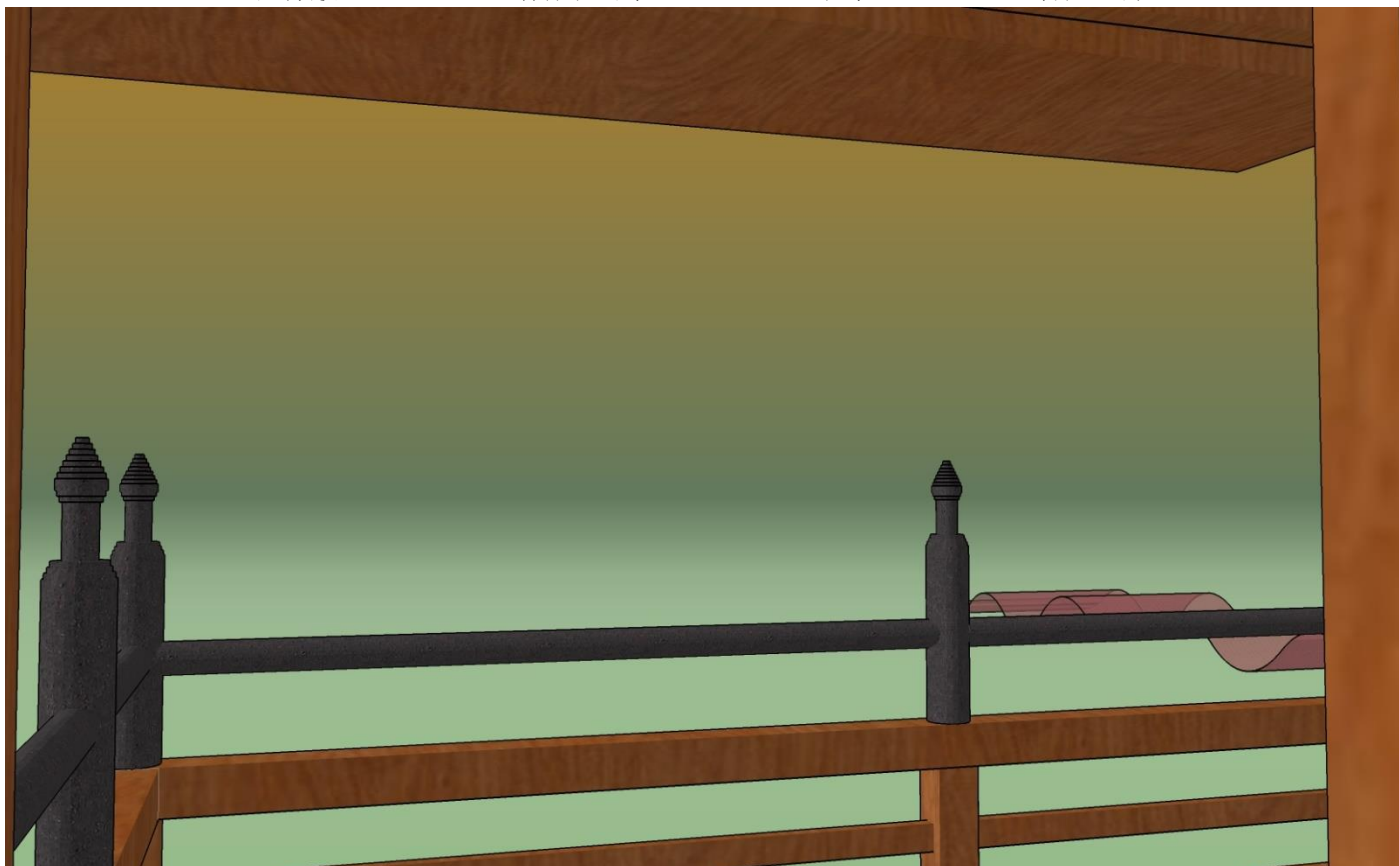
仮想共同編纂所の構想は、岩崎が中心となってはきたが、スタッフの間から自然に出てきたものでもある。



個人の著作物管理を、最新の 3DCG 技術で描いた古風な御殿を舞台に、行うことができる時代となった。



黄昏れる。



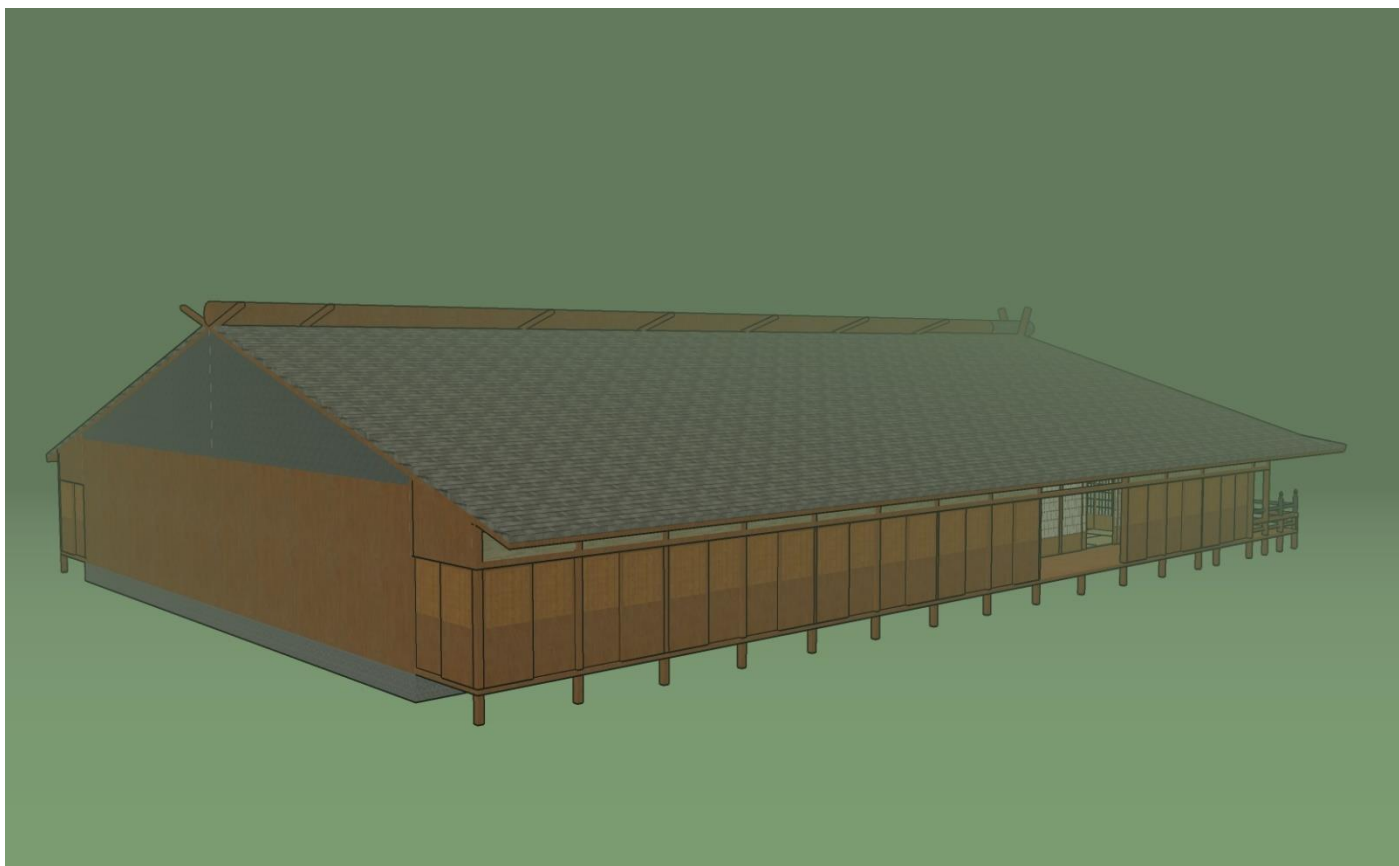
出来上がった IJCA・IJCW の行く先は、無限の夕焼けの彼方である。



御殿を見上げる。



岩崎以外のスタッフは、もちろん入れ替わりもあり、年々適任者は減りつつある。



御殿の後ろ姿。



今後とも、できるだけ長く、この仮想大広間での共同編纂を継続していきたい。